

年金者組合大阪市内協議会との協議等議事録（要旨）

教育委員会事務局

- 1 日 時 令和6年12月19日（木）午前10時00分 ～ 正午
- 2 場 所 大阪市役所地下1階 第1共通会議室
- 3 団 体 名 年金者組合大阪市内協議会
- 4 協議等の趣旨 万博への学校単位の児童・生徒の招待事業についての協議
- 5 出 席 者
（団体側）
代表者 他6名
（本 市）
教育委員会事務局 3名

6 議 事

（1）参加意向調査について（項目番号1及び3）

団体要望概要

- ・各学校の参加意向の状況について、教育委員会では把握していないのか。
- ・教育委員会が各学校の意向を把握していないというのは、教育行政を行う機関としてあり得ないのではないか。
- ・交通手段も明らかになっていない状況で意向調査を行うなど、計画自体があまりにもずさんである。誰が責任を持って計画を進めているのか。博覧会協会、府・市町村の教育委員会の指揮命令系統はどうなっているのか。万博の参加者数を増やすための頭数合わせに見え、児童生徒の安全は後回しにされている感じがする。（意見のみ）

本市説明概要

- ・5月末に意向調査を締め切り、10月中旬に調整が完了する予定だったが、大阪メトロの優先列車・専用列車の運行実施が9月中旬に決定し、交通手段の選択肢が増えたことで、調整が11月末までとなった。12月4日に、大阪メトロの利用を希望した学校には府から連絡があったが、市町村教育委員会には情報が提供されていないため把握していない。
- ・大卒の意向は前回の調査で把握しているが、駅からのシャトルバスを希望しているが、運行の詳細が決まらないため、待っている学校も複数ある。下見もできていない状況の中、行くための準備として情報を収集し提供しているところである。昨日及び本日に博覧会協会の説明会が行われており、情報が更新されている。教育委員会として各学校に調査することはできるが、各学校が

来場単位で申し込みをしており、日々申込状況も変更されている中で調査を行うことは、学校にとって大きな負担になる。

(2) メタンガス等懸念事項への対策について（項目番号2及び4）

団体要望概要

- ・教員の下見の状況はどうなっているのか。
- ・教職員以外の付き添いは可能なのか。
- ・団体休憩所等昼食の場所の問題はどうなっているのか。
- ・大阪メトロの中央線が、万博開催中は1時間に24便に増便されると聞いているが、通勤・通学ラッシュの時間帯に移動することは大きな負担になるのではないのか。
- ・熱中症対策についてはどのような状況か。
- ・台風接近時や熱中症アラート発令時の実施の判断は学校に任せるのか。そうであれば、熱中症アラート発令時には実施を控えるよう、教育委員会から指導すべきである。
- ・災害時の避難体制について教えてほしい。

本市説明概要

- ・現時点では下見は実施できていない。学校現場からの要望を受け、府・博覧会協会に対しても要望していたが、昨日の説明会で、4、5月に来場する予定の学校については、開幕1週間前の「テストラン」に下見が可能になると聞いている。また、ホームページ上で動画やVRにより会場の風景を見れるようになると聞いている。原則登録単位ごとに3人下見に行くことが可能である。
- ・教職員に限らず、医療的な介助が必要な場合や、低学年で見守りが必要な場合等、看護師や保護者、ボランティアが入場無料で付き添うことは可能と聞いている。そのため、学校には子どもを安全に連れていくために必要な人員はすべて申請してくださいと伝えている。
- ・小学生は団体休憩所の予約が可能であり、現在受付中である。1日4回転で、約13,000～14,000人分の席が確保されている。中学校は予約なしで、一般的な休憩所や大屋根リング下のベンチ等を利用することになる。団体休憩所とほぼ同数の席数があると聞いているが、空きがあれば中学生も予約の対象にして欲しいと要望している。
- ・今のところ一番早い子ども専用列車もしくは優先列車は9時半頃からの運行予定のため、一番混雑する時間帯は回避している。また、メトロ側で乗降駅の割り振りも学校と調整している。
- ・熱中症アラートについては情報提供される予定である。会場においても、スポットクーラーやミスト、給水施設等が設置されると聞いている。パビリオンについては基本的に予約制のため、待ち時間は長くはない想定であり、パビリオンの中は冷暖房が設置されている。
そのため、移動時の対策が重要かと考えるが、会場内には救護施設が8か所あり、うち3か所に医師が、5箇所は看護師が常駐する。大阪府からの資料では、救急車は4台、軽EV救急車が2台、救護カートが8台配備されると記載されている。
- ・最終的には学校が判断することになる。熱中症アラート等についてはもちろん確認する必要があるという認識である。
- ・実際に地震が起きた場合、常設の危機管理センターが災害対策本部となり、警察や消防と連携し

て指示を出すと聞いている。パビリオン等の一時滞在施設に避難し、食料等も備蓄されていると聞いている。最終的には地下鉄やバスの状態に基づき帰宅支援が行われると聞いている。災害時の対応についてはどこの学校においても心配な点ではあるので、教育委員会としても引き続き確認を行っていく。

(3) 学校単位での招待事業の実施について（項目番号5）

団体要望概要

- ・移動時間や昼食の時間を除くと、実質的な見学の時間はわずか3時間程度になると思われる。そのような形で児童・生徒を危険なところに行かせて、どれだけの教育効果が得られるのか疑問である。（意見のみ）
- ・子どもの安全が第一であり、特に小学校低学年には電車の乗り換え等移動の負担もある。子どもの命を預かる教員の負担も同様であり、情報が無い中で子どもを連れていくことは、先生方も不安に思っている。（意見のみ）
- ・交野市や熊取町のように、学校単位での参加を見送る等、再検討してほしい。（意見のみ）
- ・子どもの貧困問題が改善していない中で、どこにお金を使っているんだという気持ちである。（意見のみ）